

平成 20 (2008) 年度 日本語研修コース報告

和田 礼子

1. 第 10 期 (2008 年 4 月~2008 年 9 月) コース概要

開講期間：平成 19 年 4 月 14 日 (月) ~平成 19 年 9 月 12 日 (金)

開講時間数：7 月 25 日まで授業は週に 90 分×10 コマ。

9 月 1 日からコンピュータ実習と修了レポート、発表資料作成のための集中講義。

	月	火	水	木	金
10:30 ~ 12:00	日本語 会話 1	日本語 会話 1	日本語 会話 1	日本語 会話 1	日本語 会話 1
12:50 ~ 14:20	異文化理解 1A	漢字 1	スピーチ	異文化理解 1B	
14:30 ~ 16:00				異文化間 カウンセリング	

* Word, Power point 実習、修了レポート作成 (集中講義)

使用教科書：『みんなの日本語初級 』(スリーエーネットワーク)

『みんなの日本語漢字 』(スリーエーネットワーク)

コース日程：

4 月 7 日 ~ 4 月 11 日 プリセッション ひらがな、あいさつ指導

(センター教官指導のもと、チューターによる個別指導)

4 月 8 日 全学留学生オリエンテーション

4 月 14 日 研修コースオリエンテーション、日本語授業開始

4 月 25 日 健康診断

6 月 27 日 オープンクラス (日本語授業の公開)

7 月 24 日、25 日 日本語能力試験 4 級 (過去問題) 実施

7 月 26 日 ~ 8 月 31 日 夏休み

9 月 1 日 ~ 9 月 11 日 集中講義

9 月 12 日 ポスターセッション

2 受講生・授業について

初級会話 1 のクラス構成は国費研究留学生 8 名、交換留学生 1 名、県費留学生 1 名の計 10 名で全員がコースの最後まで受講した。国籍はミャンマー 2 名、フィリピン 2 名、モリタニア、インド、スペイン、トンガ、アルゼンチン各 1 名で、全員が非漢字圏だった。ひらがなとあいさつのみを自国で学んだ学習者が 1 名、みんなの日本語 10 課まで既習の学習者が 1 名いたが、クラスはゼロ初級としてスタートした。このうち交換留学生 1 名は日

本語会話 1 と漢字のみの受講で、異文化理解やスピーチを受講していないため、08 年の研修コース修了生は 9 名である。この交換留学生は日本語会話 1 と漢字 1 の科目の単位を取得した。

途中、授業についていくのが困難と思われる学習者には週に 1 度個別指導を行った。終盤、専門の研究を開始した学生や、8 月に院試を控える学生もいたが、最終試験の結果は全員が基準を満たしていた。また、学期末に日本語能力試験 4 級の過去問題を実施した結果、8 名は合格、2 名が不合格だった。

授業では前年に引き続き週に一度復習的な要素を加えつつ、運用力強化のための練習を行うなどコミュニケーションのための時間を意識的につくった。また、後半単語の定着がおもわしくなかったため、新しい単元に入る日に新出単語のテストを行った。これは前日に絵カードのリストを配布し、その中からテストを出題するという形式のもので、授業で使う絵カードと同様のものを使用した。さらに、書くこと中心の自宅学習のスタイルを変化させるために動詞テ

ストなど一部を口頭で行った。これらの取組の結果、教室での口頭練習が比較的スムーズになった。また、Web 教材を利用した動詞の活用や、ことばの練習も引き続き行った。

今学期の成果として、「授業でおぼえたことを毎日の生活で使えるようになりましたか」という質問への回答を見ると「はい」は下がっているが「まあまあ」が増え、肯定的な回答の合計は 5 ポイント前年を上回っている。

	はい	まあまあ	ふつう	あまりつかえない
2007 年春		57%	21%	7%
2007 年秋	45%	27%	27%	0%
2008 年春	22%	55%	22%	0%

3 ポスターセッション

9 月 12 日に稲盛会館でポスターセッションを行った。来場者は 95 名(鹿大学生: 40 名、留学生 17 名、教職員: 15 名、一般: 23 名)だった。発表者は研修コース生に加え、中級、上級レベルの交換留学生合わせて 16 名がポスター発表を行った。研修コース生のうち、宮崎大学に進学予定の一名は宮崎に転出したため、8 名が発表を行った。

ポスターセッションでは来場者にアンケートを行ったところ、46 名から回答が得られた。アンケート回収率は 48.8%である。ポスターセッションについてどう思うかという質問には「とてもよい 40 名 87%」「よい 5 名 11%」「ふつう 1 名 2%」と回答があり、来場者の

2008 年春 研修コース生

国費 留学生	PAL SANDIPAN 鹿児島大学水産学研究所 (インド)
国費 留学生	MAMAUAG ROGER EDWARD PAD UA 鹿児島大学水産学研究所 (フィリピン)
国費 留学生	BACOLOD EUGENE TAN 鹿児島大学水産学研究所 (フィリピン)
国費 留学生	PHYU PHYU KHINE ZAR 鹿児島大学農学研究所 (ミャンマー)
国費 留学生	SAW MYA LINN 鹿児島大学水産学研究所 (ミャンマー)
国費 留学生	TAUFA SALOME サロメ 鹿児島大学水産学研究所 (トンガ)
国費 留学生	NIANG MOHAMED OUMAR 鹿児島大学水産学研究所 (モーリタニア)
国費 留学生	NEPAL ARATI 宮崎大学農学部 (ネパール)

ほとんどから高い評価が得られた。自由記述には「世界のことを知れる、とても刺激的な催しだと思います」「みな生き生きして楽しかったです」「日本人学生に見せるべきだろう。外国語を学ぶ姿勢を見習ってほしい」「平素知る機会が少ないので、極めて有意義なポスターセッションです。次を期待します」といった感想のほか「もっと多くの人に宣伝するべきだ」「土曜か日曜に開催してもらえたら中高生の子供他に見せて聞かせられたらと思った」といった意見もあった。休日の開催についてはセンターでも検討したことがあるが、発表者である留学生の所属する研究室の教員や、日本人学生に、まず来てもらいたいと考え、平日に開催している。現在のポスターセッションの位置づけは学習成果の発表の場であることから、このような形となっているが、今後上述のような要望についても検討していきたい。

4 研修コースの授業スケジュール

4/14	1 課	5/21	6/25
4/15		5/22	10 課
4/16		5/23	6/26
4/17	2 課	5/26	16 課 オープンクラス
4/18		5/27	6/27
4/21	3 課	5/28	6/30
4/22		5/29	7/1
4/23	動詞練習	5/30	復習
4/24	4 課	6/2	7/1
4/25		6/3	7/2
4/28		6/4	17 課
4/30	5 課	6/5	1 課～10 課テスト
5/1		6/6	7/3
5/2		6/9	7/4
5/7	6 課	6/10	会話テスト
5/8		6/11	7/4
5/9		6/12	7/7
5/12	7 課	6/13	楽しい会話
5/13		6/17	7/8
5/14		6/18	18 課
5/15	8 課	6/19	7/9
5/16		6/20	7/10
5/19	形容詞 テスト	6/23	7/11
5/20	9 課	6/24	7/14
			楽しい会話
			7/15
			19 課
			7/16
			復習
			7/17
			復習
			7/18
			復習 動詞グループ分け
			7/22
			会話テスト
			7/23
			11 課～19 課テスト
			7/24
			能力試験 4 級テスト
			7/25
			能力試験 4 級テスト
			9/1～9/11
			ポスターセッション練習

5 学生による授業評価

今年度の研修コースの授業評価結果を以下に記す。数字は評点の平均である(5段階)。

<あなたについて >

- | | |
|----------------------------------|-----|
| 1 あなたは授業によく出席しましたか。 | 4.6 |
| 2 あなたはこの授業でたくさん勉強しましたか。 | 4.2 |
| 3 授業でおぼえたことばを毎日の生活で使えるようになりましたか。 | 4.0 |
| 4 日本の文化や日本人についてよく理解できるようになりましたか。 | 4.1 |

<授業について >

- | | |
|---|-----|
| 5 授業のスピードはどうでしたか。 | 4.0 |
| 6 学習量ははどうでしたか。 | 4.3 |
| 7 クラスの学生数はどうでしたか。 | 4.6 |
| 8 一週間の授業時間数はどうでしたか。 | 4.2 |
| 9 クラスの規則や成績のつけ方についての説明はどうでしたか。 | 4.6 |
| 10 このクラスの教材は全体としてよかったですか。(テキスト・ビデオ・ハンドアウト etc.) | 4.8 |
| 11 このクラスの教え方は全体としてよかったですか。 | 4.7 |
| 12 テストのやり方や宿題、レポートの直し方は全体としてよかったですか。 | 4.4 |
| 13 この授業は全体としてどうでしたか。 | 4.8 |

全体的に高い評価を得ており、学生たちの満足度が高かったことがわかる。学生のコメントには「会話、練習の時間を増やしてほしい」「教科書をもっと進めてほしい」といった要望が書かれていた。同様の要望は例年出されており、少しずつ対応しているが、引き続き工夫をしていきたい。

6 まとめ

研修コース終了後、1名が宮崎大学に進学した。後期、学生の日本語履修の状況は以下の通りである。

- | | |
|-------------|------|
| 初級3を受講 | : 4名 |
| 日本語クラスを受講せず | : 4名 |

日本語クラスを継続しなかった4名は全員水産学部の学生で、キャンパスが離れているため実験の合間などの時間をみつけて受講するといったことができなかった。日本語クラスを受講しなかった学生の中には夏休みに会館で開講された5週間プログラムを受講した学生もいた。初級3を受講した学生の中にも水産学部の学生が2名いたが、この2名は指導教員と研究計画について話し合い後期までは日本語クラスの受講が可能だった。

修了生の中には研修コースを修了直後は、日本語クラスを受講できなくても、半期後、または一年後に再び日本語のクラスを受講する学生もいる。学位取得を目指す留学生にとって、研究が最優先されるのは当然のことであるが、なんとか日本語学習を続けたいと思う留学生のニーズに応えていける日本語コースの設定は、重要な課題でもある。その一方で日本語の入門期に当たる研修コースでは、留学生のその後の日本語学習につながるような基礎力をつけていきたい。
(留学生センター准教授)